

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)LOGIQ綾瀬新築工事	階数	地上5F
建設地	綾瀬市早川字上原2.650の1ほか28筆の各一部及び早川字山王原2.291ほか37筆(綾瀬市早川中央土地区画整理事業仮換地1街区1画地ほか45画地)	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	824 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年6月23日
敷地面積	47,096 m <sup>2</sup>	作成者	大日本土木(株)一級建築士事務所
建築面積	24,564 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	117,197 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値	100%
②建築物の取組み	76%
③上記+②以外の	76%
④上記+	76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.6
温熱環境	3.0
光・視環境	2.6
空気環境	3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

機能性	2.9
耐用性	4.2
対応性	4.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.3

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	4.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

水資源	3.4
非再生材料の	3.7
汚染物質	4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化	3.9
地域環境	3.6
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>四つの柱(情報・貢献・信頼と約束・総合力)を軸に、周辺地域の人・テナント・荷主・働く人等関わる全ての人に温かい施設となることを目指し、時代のニーズを感じ取りながらより良い環境づくりへ真摯に取り組んだ設計とする。</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>遮音性能の高い建具や内部仕上に吸音板を採用し、また、F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に使用している。さらに基準の換気量を1.4倍以上を確保し事務室に重要な室内の音環境、空気環境を高い水準で設計している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>事務室は高い天井高と広い窓を設け開放的な計画に加えリフレッシュスペースも充実している。外観に対して防汚性の高い建材の採用や防錆防鳥対策、維持管理が容易になるよう複数の対策がとられている。損傷制御設計、免震構造を採用し、緊急時に防災拠点となるよう給排水設備や情報通信設備が問題なく使用できるように対策がとられている。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>立地特性に応じた植栽を選定し敷地内の緑化に努めている。適切な量の駐輪場・駐車場を設置し、荷捌き用車両の駐車スペースも設置している。車両出入口と出口を別々に設置することで、周辺道路の渋滞緩和対策としている。主要な屋外照明は照明効率の高いものを選定し、かつ敷地外への光の拡散を防ぐためのフードを取付けるよう計画している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>BPI<sub>lm</sub>=0.69, BEI<sub>lm</sub>=0.51, 太陽光発電設備及びLED照明設備を導入している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>建物躯体に高強度コンクリート、プレストレストコンクリートを採用し、躯体材料以外では複数のリサイクル材や、リサイクルできる可能性のある部材を採用することで非再生資源の使用量の削減に努めている。更に、汚染物質を含まない材料を積極的に採用している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LCCO<sub>2</sub>排出率76%であり温暖化へ配慮した設計である。適切な量の駐輪場・駐車場を設置し、荷捌き用車両の駐車スペースも設置している。車両出入口と出口を別々に設置することで、周辺道路の渋滞緩和対策としている。主要な屋外照明は照明効率の高いものを選定し、かつ敷地外への光の拡散を防ぐためのフードを取付けるよう計画している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される